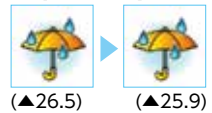


【全体】景況は「足踏み状態」

業況DI値は前期より好転が0.1% (9.9%→10.0%) 増加、悪化が0.5% (36.4%→35.9%) 低下したことから0.6ポイント上昇の▲25.9ポイントとなった。DI値は小幅ながら上昇したものの、依然として仕入価格上昇や需要の停滞を問題とする企業が多く見られ、景況は予断を許さない状況にある。

[前期との比較]



【北部】



- 業況DI値は前期より0.1ポイント低下し、概ね横ばいに推移した。他調査項目は悪化しており、特に採算DI値は6.1ポイント低下した。
- 来期の業況は、製造業、建設業、サービス業が悪化し、小売業は概ね横ばいとなる見通しである。

【中央部】



- 業況DI値は前期より4.9ポイント低下したものの、他調査項目は上昇した。特に資金繰りDI値は7.0ポイント上昇した。
- 来期の業況は、製造業が好転し、建設業は概ね横ばい、小売業、サービス業は悪化する見通しである。

【南部】



- 業況DI値は前期より6.1ポイント上昇した。また、他調査項目も改善しており、特に資金繰りDI値は6.4ポイント上昇した。
- 来期の業況は、サービス業が好転し、建設業は概ね横ばい、製造業、小売業は悪化する見通しである。

【製造業】



■今期の業況

業況DI値は前期より1.2ポイント上昇と小幅ながら改善となった。金属製品、電子部品の受注が増加していることなどから、堅調に推移している。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

業況DI値は今期と比べ5.1ポイント低下しており、悪化する見通しである。

■設備投資

今期実施件数は3件あり、調査対象製造業の4.8%が設備投資を行なった。来期計画件数は5件となっている。

【建設業】



■今期の業況

業況DI値は前期より6.4ポイント上昇した。材料価格高騰により採算DI値は悪化となっているものの、公共工事の受注が安定していることから他調査項目は改善となった。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

業況DI値は今期と比べ6.4ポイント低下しており、悪化する見通しである。

■設備投資

今期実施件数は7件あり、調査対象建設業の14.6%が設備投資を行なった。来期計画件数は4件となっている。

【小売業】



■今期の業況

業況DI値は前期より13.4ポイント上昇したものの、依然として低調に推移している。個人消費の停滞を懸念する企業が多く見受けられた。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

業況DI値は今期と比べ6.4ポイント低下しており、悪化する見通しである。

■設備投資

今期実施件数は4件あり、調査対象小売業の5.1%が設備投資を行なった。来期計画件数は6件となっている。

【サービス業】



■今期の業況

業況DI値は前期より12.5ポイント低下した。仕入価格上昇による利益の圧迫や需要の停滞を経営上の問題点とする企業が多く見受けられた。

■来期見通し(3ヵ月ごとの比較)

業況DI値は今期と比べ0.5ポイント低下し、概ね横ばいの見通しである。

■設備投資

今期実施件数は13件あり、調査対象サービス業の12.5%が設備投資を行なった。来期計画件数は14件となっている。

北部トピックス

- 三種町 三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会がふるさと秋田農林水産大賞の産地部門で「農林水産大臣賞」を受賞した。また、町と関係機関が一体となって安全で安心できる国産じゅんさいのブランドを構築するため、JGAP(適切な農場管理の基準)認証を取得した。
- 白神八峰 (株)鈴木水産がむらおこし特産品コンテストで全国商工会連合会会長賞(ハタハタオイル漬け)、全国推奨観光土産審査会で日本商店連盟会長賞(神の魚物語り)を相次いで受賞した。

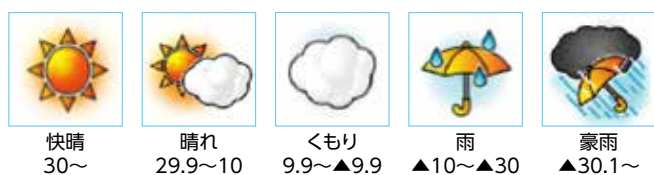
中央部トピックス

- 河辺雄和 建設機械の販売・修理・レンタル会社の(株)ヨシカワが「芸術の里」の空き家(河辺地区)を活用して秋田営業所を開設することとなった。秋田県に初進出となり、事務所等の改装工事や雇用創出による経済への波及効果が期待される。
- 由利本荘市 千代田区神田に由利本荘市の食材・地酒を提供するアンテナ居酒屋「秋田県由利本荘市うまいもの酒場」が11月にオープンした。由利本荘市の食材を使った100種類以上の料理と市内4酒蔵の地酒を取り揃えており、今後の販路拡大に期待できる。

南部トピックス

- 大仙市 10月16日～19日に大仙市商工会と行政が主催した大仙市ふるさと物産フェア2014 in 有楽町が東京都JR有楽町駅前広場及び東京交通会館前で開催された。20,000人の来場を記録するなど、大仙市の特産品を求め多くの来場者で賑わった。
- 東成瀬村 タム関連工事関係者の利用や紅葉シーズンを迎える乗客の増加により宿泊施設が活況を呈している。これから冬を迎えスキー場利用客の増加が見込まれることから、周辺地域の経済効果が期待できる。

【天気図】 前年同期比のDI値をもとに作成



※「DI 値」とは、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で各調査項目についての増加企業割合と、減少企業割合の差を示す。

【調査要領】

1. 調査対象 (1)対象地区:全21 商工会地区 (2)対象企業数:294 企業 (3)回答企業数:294 企業 (回収率:100%)
2. 調査対象時期 平成26年10月～12月期を対象とし、調査時点は平成26年11月15日とした。
3. 調査方法 (1)商工会の経営指導員による訪問面接調査 (2)調査対象企業の抽出は「中小企業景況調査実施要領およびマニュアル」による。

4. 調査対象企業数内訳

| 業 種 | 対象企業数 | | | |
|-----------|-------|-------|-----|-----|
| | 北 部 | 中 央 部 | 南 部 | 合 計 |
| 製 造 業 | 22 | 18 | 23 | 63 |
| 建 設 業 | 18 | 13 | 17 | 48 |
| 小 売 業 | 25 | 28 | 26 | 79 |
| サ ー ビ ス 業 | 41 | 31 | 32 | 104 |
| 合 計 | 106 | 90 | 98 | 294 |

5. その他

- (1)前年同期とは平成25年10月～12月期、前期とは平成26年7月～9月期、来期とは平成27年1月～3月期のことをいう。
- (2)本報告で主に使用する調査項目は、業況・売上・採算・資金繰り、設備投資の状況である。